

平成21年度新規事業評価調書

【農村総合整備事業】 (田園空間整備事業)

農林水産局農地整備課

事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	室長 大田 恵司 (課長補佐兼 田園空間係長 竹内 聡)	内線	3931 (4022)
--------------	----------------	---------------------	------------------------------------	----	----------------

事業種目	農村総合整備	事業名	事業区間	総事業費	2.2 億円
		田園空間整備事業	神河の里地区	内用地補償費	0.03 億円

所在地	事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
神崎郡神河町	H21	H21	H25

事業目的	事業内容
<p>神河町では、少子・高齢化や過疎化により農村の活力衰退が危惧されていることから、地域の活性化を図るため、平成18年度から集落にある地域資源を再評価し、その地域資源を生かした個性ある集落づくりを行う地域サロン（ワークショップ）が全39集落で展開された。その結果、集落ごとに多くの魅力的な宝もの（地域資源）が再発見され、新しい地域づくりの機運が高まっている。</p> <p>これまでグリーンエコー笠形やヨーデルの森などを中心に都市との交流がなされているが、未だ十分活用されていない魅力的な資源がある。この資源を活かし、さらなる都市農村の交流を促進して、地域の活性化を図る。</p>	<p>○田園空間整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産基盤 農業用排水施設:L=2.0km [国:50% 県13.5% その他36.5%] ・環境施設（生産基盤的） 農業集落道:L=1.5km [国:50% 県7% その他43%] ・環境施設（生活改善的） コミュニティ施設整備（JR寺前駅前観光交流センター内、総合案内所）：1箇所 休憩施設等整備:5箇所、案内板等整備：16箇所 歩行者専用遊歩道整備：0.9km [国:50% 県0% その他50%]

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<p>神河町では小規模高齢化集落もあり、集落の活力低下が課題となっている。一方、都市地域では楽農生活への関心が高まっている。このため、豊かな地域資源を保全・活用し、都市と農村の交流を促進して、地域の活性化を図るため、遊歩道や案内板などの環境施設の整備を行う必要がある。</p> <p>①町民をはじめ都市の人々に神河町の豊かな地域資源を再認識して、地域の活性化を図るため、歴史遺産、豊かな水資源、美しい景観等の地域資源を案内板等で紹介するとともに、銀馬車の道ルート、名水ルート、高原ルートを繋ぐ遊歩道（フットパス）を整備する必要がある。またその総合窓口として JR 寺前駅前のコミュニティ施設（総合案内所）を整備する必要がある。</p> <p>②都市農村の交流を促進するとともに、緊急車両の通行を確保するため狭小な集落内道路の整備する必要がある。</p> <p>③直売所等に農産物の安定供給を図り、都市農村の交流を促進するため、漏水や溢水等があり営農に支障がある用排水施設を改修する必要がある。</p>
(2)有効性・効率性	<p>総費用総便益比 B/C=1.82（総便益額 B=823 百万円、総費用=452 百万円）投資効率が 1.0 以上であり、事業として効果が十分期待できる。</p>
(3)環境適合性	<p>在来種(オオサンショウウオ、ヨシノボリ等)の生態系を保全するため、石積み水路や、魚巢ブロック等の整備を行う。</p>
(4)優先性	<p>①市川流域の姫路市から朝来市生野町までの広域な範囲での交流を目指した銀の馬車道プロジェクトと相乗効果があるため、早急に実施する必要がある。</p> <p>②神河町では、集落、観光協会、商工会で構成する田園空間博物館の運営に関わる調整や合意形成等を行う運営協議会が発足しており、地域資源の案内人育成や、イベント情報の発信、特産品の開発や販売等の促進などが計画されており、地域活性化への機運が高まっている。</p>

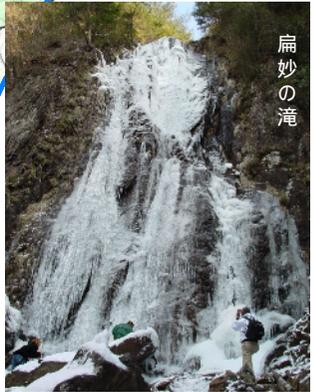
神河の里地区「整備計画構想図」



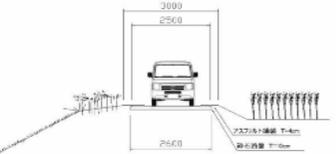
高原ルート

銀馬車の道ルート

名水ルート

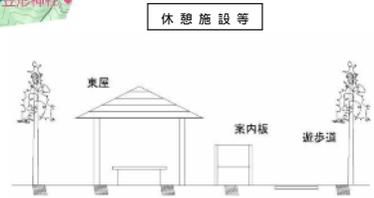


集落道整備 (Village road improvement)



	各水と8つの集落物語を巡るルート
	歴史と14の集落物語を巡るルート
	高原と17つの集落物語を巡るルート

凡例	事業量
1	農業用排水路 L=2,009m
2	農業集落道 L=1,531m
3	休憩施設等 5箇所
4	歩行者専用遊歩道 L=922m
5	案内板等 16箇所
6	コミュニティ施設 1箇所
	サテライト(46箇所)



○工程表

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	備考
実施設計		←→					
生産基盤		←		→			
環境施設（生産基盤的）		←				→	
環境施設（生活改善的）		←				→	

○B/C根拠
便益(B)の項目

事業	B(便益)	算定方法
農村総合整備	作物生産便益 農業用排水施設の改修による干害防止や水路管理改修等による作物収穫量の増加額の合計	年効果額(円/年)=作付面積(ha)×現況単収(kg/10a)×増収率(%)×作物単価(円/kg)×純益率(%)
	維持管理費節減便益 既設の施設にかかる維持管理費と計画施設にかかる維持管理費との比較による経費節減額の合計	年効果額(円/年)=現況施設維持管理費(円/年)－計画施設維持管理費(円/年)
	景観・環境保全便益 農村生活環境の改善や景観・環境保全が図られる額の合計	年効果額(円/年)=アンケートによる住民支払意志額単価×受益戸数

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額(百万円)	代表的な効果	総費用(百万円)	事業費(百万円)	維持管理費(百万円)	
農村総合整備	田園空間整備事業	作物生産便益	393	水路更新による水稲等の収量確保	452	223	1.82
		維持管理費節減便益	5	水路ライニング等による維持管理の減			
		景観・環境保全便益	425	集落道整備や遊歩道等についての支払意志額			
		総便益額	823				

※費用便益比算定:「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)